

AJWCEF

NEWSLETTER 2014 年 11 月 Vol. 10

AJWCEF 会員及びご支援を頂いております皆様へ

皆様におかれましては平素より AJWCEF の活動をご支援頂き誠にありがとうございます。お陰をもちまして幣財団の野生動物保護啓発活動も順調に進んでおり、陸上および海洋の野生動物保護トレーニングコースにはすでに 150 名を越す方々にご参加頂きました。この方々はトレーニングコース中に野生動物保護や救護の実態を体験され、多くの新しい経験や知識を吸収されたと思います。コース終了後これらの方々が知識を受け取る側から与える側に変われ、より多くの皆様に地球の健全な生態系の維持の大切さを伝えていただける事と信じております。

近年、オーストラリアはシドニー、メルボルン、ブリスベンを中心に都市開発が進んでおり、大都市周辺の住宅開発も地域によって目覚ましい速度で進んでおります。最近は特に環境に配慮し緑を取り入れた開発が多く見受けられるようになりました。しかし、このような開発の際に使われる街路樹や公園の植物は、ユーカリを代表とするオーストラリアの固有種ではなく、見栄えの良い外来種が多く使用されます。コアラを代表とするオーストラリアの野生動物たちは、長い間ユーカリの森に順応し暮らしてきました。残念な事にこれらの動物たちは外来の植物の森では生きていけないのです。考えてみれば非常に基本的なことです、開発をする場合によく見逃されてしまいます。

AJWCEF ではトレーニングコースやスタディーツアーを通しこのような野生動物保護の重要な点を実際に体験していただき、皆様に身近な環境から見直していただくきっかけをご提供しています。そして、この小さな環境保護がやがて地球の生態系の保護へつながっていくことを心から期待しております。引き続き皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

最後に、私事で恐縮ですが、この度クィーンズランド州レッドランド市より親善大使および国際関係顧問を拝命いたしました。レッドランド市はオーストラリアでも有数のコアラの生息地ですが、急速な都市開発によりその数が激減しております。市といたしましては環境や野生動物の保護に益々力を入れる姿勢を打ち出しており、微力ながら AJWCEF 共々貢献していく所存です。引き続き皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

AJWCEF 理事長
水野 哲男

中継による環境教育を行っている AJWCEF とクリーブランド地区高校が
ナショナル - オーストラリア - バンクの教育助成金賞に選ばれました。

2014年8月トレーニングコース（初級）レポート

（写真：2014年8月 野生動物保護トレーニングコース（初級）より）



（左から 絶滅危惧種マホガニーグライダー、コアラに補助食を与える様子、ファットテールダナート、病気や怪我のコアラの為にユーカリを植林する様子、鎮静のかかったコアラをケージに運ぶ様子、ユーカリを食べる膀胱炎で入院しているコアラ）

山岸麻衣子



2週間という限られた期間であったにもかかわらずたくさんの刺激をうけ、自分自身の考えを再考させられる貴重な機会になりました。オーストラリアは環境・野生動物保護先進国である、という認識が強くそのオーストラリアで具体的な体験ができる事に大きな期待をもって参加しました。草の根レベルの活動への参加は、実際に動物のケアをするお手伝いができたことに加え、動物を助きたいという気持ちを抱くスタッフさんと交流ができたこともとてもうれしい時間となりました。また、多様な視点から環境・野生動物保護活動が運営されていること、保護活動を行う環境そして政策を勉強する機会にもなりました。その反面、野生動物保護施設の存在やその活動について地域の人達の認識が自分が考えていた以上に未熟である等の現実を知ることにもなり、保護の現場や現状における葛藤を感じることもなりました。今回の参加は、私自身これまでは「知らない」ことを言い訳として「自分が居心地の良い環境」を求めて生活をしてきましたが、人間という動物や人間が飼いならした動物と先住動物みんながすこしずつ「苦労」を分かちあう、そのためには特に人間の「努力」はとても重要であることを痛感することになりました。私の行動一つが巡り巡って動物たちを助けることにつながるということを肝に銘じ微力ではあっても「環境・野生動物を思いやる」行動を心がけようと思っています。最後になりましたが、このような機会を提供いただき、AJWCEF とトレーニング受入団体のスタッフのみなさまに感謝します。



野生動物ケアラーを訪問

藤井佳代



野生動物ケアラーが
孤児になった野生動物に
ミルクをやる様子

オーストラリアでの日々は、毎日が充実していて新しい発見の連続でした。

専業主婦の私にとって、獣医学部の学生さんたちも参加されるコースなので内容が難しいのでは？との不安もありましたが、専門的な内容もわかりやすく説明していただけて理解できたし、講義ばかりではなく実習も多かったので興味深く参加できました。

今回、観光旅行では行けないような施設にも入る許可をいただき、野生動物が保護される現状を実際に見て実習できたことは、貴重な体験でした。コアラが危機的な状況にあることは聞いていましたが、その他にもたくさんの種類の動植物が絶滅の危機に瀕していることには驚きました。オーストラリアには何度か行ったことがありましたが、今回初めて見る動物もたくさんいました。

また、実際に活動されている施設のスタッフやボランティアの人たちが、信念をもって熱心に活動されていることに感心しました。現地の保護施設では、あらゆる野生動物を保護して野生に帰す努力をしていました。動物が保護されなくてもいいように、自然を守る活動や多くの人に現状を知ってもらう教育活動もされていました。

オーストラリアでは、人間も自然ととても近いところで暮らしているので、野生動物をととても近くに感じられます。これは、日本では忘れられた感覚のような気がします。

野生動物保護の問題は、オーストラリアだけではなくありません。今後は、私にできることを見つけて、少しずつでも何か始めていきたいと思います。

獣医学部 5年 R.S.

私の友人には野生動物を相手に仕事したいと考える人が多く、しばしば同じ考えを持つ仲間同士で意見を交わし合うことがありました。ある友人が「野生動物保護をしたいって言っている人の大半は、ただ世界中の野生動物を見たいだけ」と語っているのを聞いて、はっとしました。私の野生動物への興味は単なる私欲なのではないかと感じました。

しかし動物園やコアラ病院で日々野生動物と向き合うことを通して、私が生涯を賭してやるべきことは野生動物保護であると確信しました。とりわけ日本に限るのではなく、世界という大きなフィールドで活動したいという思いも強まりました。こういった形で保護に携わるかは未定ですが、私の将来を決める一つのきっかけになったことは間違いありません。

トレーニングコースでは大変多くの先生方、ボランティアの方々、レンジャーの方々にお世話になりました。そしてなにより、一緒に生活を共にした友人たちにも様々な場面で助けられました。皆様のお力添えがなければ、あれほど充実した時を過ごすことはできませんでした。厚く御礼申し上げます。



Bridled naitail wallaby
(絶滅危惧種の繁殖を行う
クイーンズランド大学施設)

立教大学 理学部 1年 藤井絵実加



木登りカンガルー
(David Fleay Wildlife Park)

昔からオーストラリア特有の動物たちに興味があり、野生動物保護にも大きな関心を持っていたので、このトレーニングコースへの参加を決めました。明るくて気さくな AJWCEF のスタッフのみなさんや、一緒にコースに参加した楽しい仲間と、様々なことを学びながら時間を過ごせたこの2週間は、今後も忘れられないであろう素敵な思い出になりました。

トレーニングコース中はレンジャーやボランティアの方から聞いて知ったことに対して、驚きや感動の連続でした。

私が一番感動したのは、オーストラリアの人々の野生動物への関心の大きさでした。仕事へ向かう前にボランティアをしたり、自分の家で母親を亡くした動物を育てたりなど、そういう人々がたくさんいるということが私にとっては衝撃でした。日本にいただけでは知ることができないであろう現地の人々のそういった気持ちの大きさや、オーストラリアの動物たちの現状をこの目で見、そしてボランティアを体験させてもらうことができ、

私自身の将来野生動物保護に関わりたいという気持ちも更には強くなりました。

色々な形で野生動物に関わっている人たちがいることを知ったので、大学で学んでいる自分の専門を生かして何か野生動物保護の手助けになれるような道があればいいな、と今考えています。

楽しくて、とても有意義な時間をありがとうございました。



(左上：カンガルー餌付け、左下：ハリモグラ、右上：結膜炎のコアラの目を洗浄する様子、右下：Bridled naitail wallaby)

※AJWCEF ホームページの「スタディツアー トレーニングコース体験談」のコーナー

<http://www.ajwcef.org/ajwcef-news.htm> でも参加者の皆さんのレポートを紹介しています！

またフォトギャラリーも是非ご覧ください！ <http://album.ajwcef.org/>

2014 年 8 月トレーニングコース（海洋生物初級）

—Photo Gallery—

オーストラリア クイーンズランド州のモートン湾にある世界最大級の砂の島、ノースストラッドブローック島にて野生動物保護トレーニングコース（海洋生物初級）が開催されました。

オーストラリアで最も権威のある大学の一つ、クイーンズランド大学所有のモートンベイ海洋研究ステーションをベースに、大学の特別な許可の下、研究者などの指導を受け、カヤックやシュノーケルも活用しながら海洋環境および生物の保護について広く学ばれました。



フォトギャラリー<http://album.ajwcef.org/>でも海洋生物初級の写真をご覧になれます！

今後のトレーニングコースに関する情報はA J W C E F ホームページ

http://www.ajwcef.org/top_japan.htmにてご確認ください。

イプスウィッチ コアラ保護協会

IPSWICH KOALA PROTECTION SOCIETY

今年で二回目となる年に一度の大イベント、コアラ・コネクション・デイ（'Koala Konnection Day'）が 2014 年 10 月 12 日（日曜日）イプスウィッチコアラ保護協会本部にて開催されました。このイベントは地域の野生動物保護への理解と連携を深めるために企画されました。協会のメンバーに限らず誰もが参加でき、イプスウィッチ市のみならず様々な地域から約 200 人が訪れ大成功となりました。また、今年で 20 周年を迎えるイプスウィッチコアラ保護協会を祝う素晴らしい機会にもなりました。



ケアラーに育てられている Mr. Blinky



二頭の赤ちゃんコアラとこんにちは



パネル紹介



土地開発による生息地の喪失など、様々なストレスに起因する日和見感染症や、交通事故、ペットによる攻撃などで多くのコアラが犠牲になっています。母親を失った赤ちゃんコアラたちは人間の手で育てられます。イプスウィッチコアラ保護協会にも、コアラに限らず様々な野生動物の赤ちゃんを育てる特別な免許を持った野生動物ケアラーが所属しています。このイベントでは、そうした赤ちゃんコアラに対面できるコーナーを設置し、野生動物が直面している問題や、それに対するイプスウィッチコアラ保護協会の活動をパネルで紹介しました。また、パンフレットなどの資料も同時に提供されました。



学校や地域のイベントなどで、野生動物についての意識向上を促す活動にも力を注いでいます。この活動を更にパワーアップさせる移動式のエデュケーション・トレーラーが完成し初披露されました。

（左右のボードには、コアラの実際の見撃&救助記録に基づいた生息地マップや、救助活動、コアラが直面している問題などを紹介、中央では大画面でプレゼンテーションを上映することができます。）

その他にも、チャリティーバザー&オークション、抽選会、B B Qなど様々な催しが行われました。



(↑写真 左：イプスウィッチコアラ保護協会ブース、中央：イプスウィッチコアラ保護協会のメンバー、John Hayek さんと Leonie Robertson さんが主催する The Hollow Log Country Retreat のブース展示、右：キッズセクション)

本部には年中無休 24 時間対応の野生動物をレスキューするための機材を備えた救急車とクリニックがあります。電話要請すればいつでも獣医さんが駆けつけてくれる態勢をとっており、緊急に獣医師の診察や治療が必要な場合にも対応しています。この日も獣医さんによる野生動物のケアが行われました。



(写真 左：野生動物のための救急車、中央：治療を受けるフロッグマウス、右：クリニックの様子)

本部クリニック前では、イプスウィッチコアラ保護協会のメンバーが主催する WILDCALL による野生動物を実際に見て学べるショーが繰り広げられ、子供から大人まで様々な野生動物について学びました。





また、キッズセクションではフェイスペインティング、塗り絵、輪投げ、広場での動物探しクイズなど様々な楽しいイベントが開催され、多くの子供たちが身近に住む野生動物について学びました。地球にいる多くの仲間たちについて理解を深め、将来、そうした仲間たちを大切にする素敵な地球のシェアメイトになってくれるといいですね！

(協力：イプスウィッチコアラ保護協会、写真&取材：Toshimi Hirano)

AJWCEF 主催オーストラリア野生動物保護トレーニングコース（初級）では、今年もイプスウィッチコアラ保護協会の野生動物ケアラーを訪問しました。

孤児となりケアを受けている赤ちゃん達と対面し、
野生動物ケアラーたちから実際の活動で苦労する点や、
野生動物たちが直面している問題についてのお話を伺いました。



AJWCEF では今後も献身的で愛情に溢れた野生動物ケアラーたちの活動の支援を続けていきます！

活動報告

2014 年 4 月から 2014 年 10 月まで



メディア

1. 「地球アゴラ」—世界びっくりアニマルシティ— 2014 年 7 月 13 日 (NHK BS-1)

インターネット中継教育

1. オーストラリア ブリスベン市、レッドランド市、イプスウィッチ市、ゴールドコースト市などにある野生動物及び環境保護施設やクリーブランド地区高校、プレンベイル小学校と、岐阜県可児市にある可児工業高校を中継で結び、オーストラリアの自然、生活、環境保護活動などを英語で紹介する中継教育活動を実施。

環境保護スタディツアー

1. 2014 年 7 月 30 日
埼玉県立越谷南高等学校 (開催地 オーストラリア クイーンズランド州 ノースストラッドブローック島でのセミナー、ポイントルックアウトからの野生動物観察など)

野生動物保護トレーニングコース

1. 2014 年 8 月 トレーニングコース (海洋生物初級)
2. 2014 年 8 月 トレーニングコース (初級)

事業

1. ユーカリ植林事業
(モギルコアラ病院、プレンベイル小学校、ケンモア・サウス小学校、AJWCEF での共同事業継続中)
2. オーストラリア日本研究交流事業
(クイーンズランド大学、日本獣医生命科学大学、モギルコアラ病院、デービッドフレイ野生動物公園等)

セミナー

1. 2014 年 10 月 3 日 生野高等学校 (大阪府)
2. 2014 年 10 月 6 日 岩手大学 (岩手) ※台風のため中止となりました。
3. 2014 年 10 月 8 日 北里大学 (青森県)
4. 2014 年 10 月 9 日 日本獣医生命科学大学 (東京都)

寄付

1. 2014 年 9 月クイーンズランド大学 : \$ 600
2. 2014 年 9 月モギルコアラ病院 : \$ 1500
3. 2014 年 9 月イプスウィッチコアラ保護協会 : \$ 200
4. 2014 年 10 月カランビン ワイルドライフ サンクチュアリー : \$ 462



イベント情報

野生動物保護トレーニングコース

1. 野生動物保護トレーニングコース（上級）

2015年3月7日(土)～3月14日(土)(8日間)

開催地：オーストラリア クイーンズランド州



2. 野生動物保護トレーニングコース（初級）

2015年3月15日(日)～3月29日(日)(15日間)

開催地：オーストラリア クイーンズランド州

※やむを得ない事情により変更になる場合があります。

各コースの詳細および募集については11月中旬頃にホームページにて正式に発表させていただきます。

会員(個人・法人)募集 及び 支援寄附のお願い

皆さまのご支援が小さな命を助けます

詳細は、AJWCEFのサイトwww.ajwcef.org『入会・寄付』のページにお進みください。

ニューズレター発行元

オーストラリア野生動物保護教育財団本部事務局

発行責任者 水野哲男

編集担当 平野聡美

ホームページwww.ajwcef.org

住所 PO Box 1362 KENMORE,
QUEENSLAND, 4069, AUSTRALIA

電話 +61 7 3374-3909 FAX +61 7 3374-3531